

令和4年度 高知大学2次試験前期日程 (数学問題)

令和4年2月25日

- 理工 (数学物理・情報科学)・医 (医) 学部 1 2 3 4
数I・II・III・A・B (120分)
- 教育学部 5 6 7 8
数I・II・A・B (120分)

1 数列 $\{a_n\}$ は, $a_1 = 1$, $a_2 = 5$, および, すべての自然数 n に対して,

$$a_{n+2} = 4a_{n+1} - 3a_n - 4$$

をみたすとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) a_3, a_4, a_5 を求めよ.
- (2) すべての自然数 n に対して, $b_n = a_{n+1} - a_n$ で数列 $\{b_n\}$ を定義する. 一般項 b_n を求めよ.
- (3) 一般項 a_n を求めよ.
- (4) $\sum_{k=1}^n a_k$ を求めよ.

2 次の問いに答えよ.

- (1) $1 \leq p \leq 8, 1 \leq q \leq 8, |p - q| > 2$ を同時にみたす整数の組 (p, q) の個数を求めよ.
- (2) 自然数 n に対して, 整数 p と q は, $1 \leq p \leq n$ と $1 \leq q \leq n$ を満たすとする. さらに, p と q の少なくとも一方が $\frac{n}{2}$ 以上であるような整数の組 (p, q) の個数 a_n を求めよ.
- (3) 自然数 n に対して, $1 \leq p \leq n, 1 \leq q \leq n, p^2 + q^2 \leq n^2$ を同時にみたす整数の組 (p, q) の個数を b_n とする. このとき,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{n^2} = \frac{\pi}{4}$$

となることを示せ.

3 a と b は実数とし、次の方程式を考える。

$$x^2 + ax + b = 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

また、 $|z - (\sqrt{3} + i)| = 1$ をみたす複素数平面上の点 z からなる図形を C とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 方程式 $\textcircled{1}$ の1つの解の偏角が $\frac{\pi}{3}$ となるときの a と b の条件を求めよ。さらに、その条件をみたす点 (a, b) の集合を ab 平面上に図示せよ。
- (2) 方程式 $\textcircled{1}$ の解の1つに対応する複素数平面上の点が C 上にあるとする。その解の絶対値が最大となるときの a と b を求めよ。
- (3) 方程式 $\textcircled{1}$ の解の1つに対応する複素数平面上の点が C 上にあるとする。その解の偏角が 0 以上 2π 未満の範囲において最大となるときの a と b を求めよ。

4 次の問いに答えよ。

- (1) 正の実数 x に対して、 $e^x > 1 + x$ が成り立つことを示せ。
- (2) $n \geq 1$ に対して、 $\sum_{k=1}^n \frac{1}{k} > \log(n+1)$ が成り立つことを示せ。
- (3) $k \geq 2$ に対して、 $\frac{1}{k^2} < \frac{1}{(k-1)k}$ が成り立つことを用いて、 $n \geq 2$ に対して、 $\sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2} < 2 - \frac{1}{n}$ が成り立つことを示せ。
- (4) $\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{k^2}$ は正の無限大には発散しないことを示せ。また、 $\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{k}$ は正の無限大に発散することを示せ。

5 1辺の長さが1である正四面体を ABCD とし、三角形 BCD の重心を P とする。また、点 G を $\vec{AG} = \frac{\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}}{4}$ をみたす点とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 線分 AG の長さを求めよ。
- (2) 3点 A, G, P は同一直線上にあることを示せ。
- (3) AG : GP を求めよ。
- (4) $\cos \angle AGB$ の値を求めよ。

6 次の問いに答えよ。

- (1) $\sin \frac{11}{12}\pi$ の値を求めよ。
- (2) $0 \leq \theta < 2\pi$ のとき、次の方程式をみたす θ を求めよ。

$$\cos 2\theta + 11 \sin \theta - 6 = 0$$

- (3) $0 \leq \theta < 2\pi$ のとき、次の方程式をみたす異なる θ がちょうど 4 個あるような実数 k の範囲を求めよ。

$$\sin 3\theta - 9 \sin^2 \theta + 9 \sin \theta = k$$

7 数列 $\{a_n\}$ は、 $a_1 = 1$ 、および、すべての自然数 n に対して、

$$a_{n+1} = \frac{4 - a_n}{3 - a_n}$$

をみたすとする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) a_2, a_3, a_4 を求めよ。
- (2) 一般項 a_n を推測して、それが正しいことを証明せよ。

8 $a > 0$ とする。 $y = x(a - x)$ で定まる曲線を C とする。そして、 C と x 軸とで囲まれた部分の面積を 2 等分するような、原点を通る直線を l とする。また、 C と l との原点以外の交点を P とする。さらに、 C の P における接線を m とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) C と x 軸とで囲まれた部分の面積を求めよ。
- (2) P の座標を求めよ。
- (3) m の方程式を求めよ。
- (4) y 軸と C と m で囲まれた部分の面積は (1) で求めた値に等しいことを示せ。

解答例

1 (1) $a_1 = 1, a_2 = 5, a_{n+2} = 4a_{n+1} - 3a_n - 4$ より

$$a_3 = 4a_2 - 3a_1 - 4 = 4 \cdot 5 - 3 \cdot 1 - 4 = \mathbf{13}$$

$$a_4 = 4a_3 - 3a_2 - 4 = 4 \cdot 13 - 3 \cdot 5 - 4 = \mathbf{33}$$

$$a_5 = 4a_4 - 3a_3 - 4 = 4 \cdot 33 - 3 \cdot 13 - 4 = \mathbf{89}$$

(2) $a_{n+2} = 4a_{n+1} - 3a_n - 4, b_n = a_{n+1} - a_n$ より

$$a_{n+2} - a_{n+1} = 3(a_{n+1} - a_n) - 4 \quad \text{ゆえに} \quad b_{n+1} = 3b_n - 4$$

上の第2式から $b_{n+1} - 2 = 3(b_n - 2)$

数列 $\{b_n - 2\}$ は、初項 $b_1 - 2 = a_2 - a_1 - 2 = 2$ 、公比3の等比数列

$$b_n - 2 = 2 \cdot 3^{n-1} \quad \text{よって} \quad \mathbf{b_n = 2 \cdot 3^{n-1} + 2}$$

(3) (2)の結果から、 $n \geq 2$ のとき

$$\sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = \sum_{k=1}^{n-1} (2 \cdot 3^{k-1} + 2)$$

$$a_n - a_1 = 2 \cdot \frac{3^n - 1}{3 - 1} + 2(n - 1)$$

したがって $a_n = 3^{n-1} + 2n - 2$

これは、 $n = 1$ のときも成立するから $\mathbf{a_n = 3^{n-1} + 2n - 2}$

(4) (3)の結果から

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n a_k &= \sum_{k=1}^n (3^{k-1} + 2k - 2) \\ &= \frac{3^n - 1}{3 - 1} + 2 \cdot \frac{1}{2} n(n+1) - 2n \\ &= \frac{\mathbf{3^n - 1}}{\mathbf{2}} + \mathbf{n^2 - n} \end{aligned}$$



- 2 (1) 6個の球を一行に並べ、その中から p, q に該当する2個の球の選び方は、 ${}_6P_2$ 通りある。その後 p と q の間に2個の球を並べる。このとき並んだ p と q をその順番とすればよい。よって、求める組 (p, q) の個数は

$${}_6P_2 = 6 \times 5 = 30 \text{ (個)}$$

- (2) $1 \leq p \leq n, 1 \leq q \leq n$ を満たすとき、 $1 \leq p < \frac{n}{2}, 1 \leq q < \frac{n}{2}$ である整数の組は

$$n \text{ が偶数のとき } \left(\frac{n-2}{2}\right)^2 \text{ 個, } n \text{ が奇数のとき } \left(\frac{n-1}{2}\right)^2 \text{ 個}$$

- n が偶数のとき

$$a_n = n^2 - \left(\frac{n-2}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}(3n-2)(n+2)$$

- n が奇数のとき

$$a_n = n^2 - \left(\frac{n-1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}(3n-1)(n+1)$$

- (3) $1 \leq p \leq n, 1 \leq q \leq n, p^2 + q^2 \leq n^2$ より $1 \leq q \leq \sqrt{n^2 - p^2}$

$$b_n = \sum_{p=1}^n \left[\sqrt{n^2 - p^2} \right] \text{ であるから } ([x] \text{ は } x \text{ を超えない最大の整数})$$

$$\begin{aligned} \sum_{p=1}^n (\sqrt{n^2 - p^2} - 1) &< b_n \leq \sum_{p=1}^n \sqrt{n^2 - p^2} \\ \sum_{p=1}^n \frac{1}{n} \sqrt{1 - \left(\frac{p}{n}\right)^2} - \frac{1}{n} &< \frac{b_n}{n^2} < \frac{1}{n} \sum_{p=1}^n \sqrt{1 - \left(\frac{p}{n}\right)^2} \end{aligned}$$

$$\text{ここで } \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{p=1}^n \sqrt{1 - \left(\frac{p}{n}\right)^2} = \int_0^1 \sqrt{1 - x^2} dx = \frac{\pi}{4}$$

$$\text{よって, はさみうちの原理により } \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{n^2} = \frac{\pi}{4} \quad \blacksquare$$

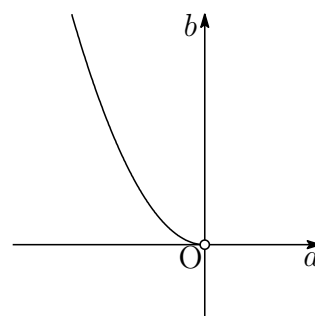
- 3 (1) 2次方程式 $x^2 + ax + b = 0$ の2つの解を

$$r \left(\cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3} \right)$$

とおくと ($r > 0$), 解との係数の関係から

$$r = -a, \quad r^2 = b$$

よって $b = a^2$ ($a < 0$)



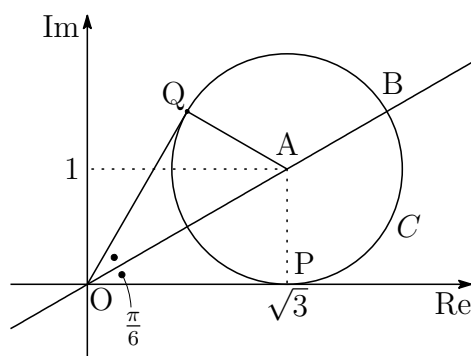
- (2) C 上の偏角が $\frac{\pi}{6}$ で, 大きさが3である下の図の点Bである.

① が2つの解

$$3 \left(\cos \frac{\pi}{6} \pm i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

をもつときであるから, 解と係数の関係により

$$a = -3\sqrt{3}, \quad b = 9$$



- (3) C 上の偏角が $\frac{\pi}{3}$ で, 大きさが $\sqrt{3}$ である上の図の点Qである.

① が2つの解

$$\sqrt{3} \left(\cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3} \right)$$

をもつときであるから, 解と係数の関係により

$$a = -\sqrt{3}, \quad b = 3$$



4 (1) $f(x) = e^x - (1+x)$ とおくと $f(0) = 0$

$$f'(x) = e^x - 1 > 0 \quad (x > 0)$$

$x \geq 0$ において, $f(x)$ は単調増加であるから

$$f(x) \geq f(0) = 0 \quad \text{よって} \quad e^x > 1+x \quad (x > 0)$$

(2) $\frac{1}{k} > \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx$ より

$$\sum_{k=1}^n \frac{1}{k} > \sum_{k=1}^n \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx = \int_1^{n+1} \frac{1}{x} dx = \left[\log x \right]_1^{n+1} = \log(n+1)$$

別解 (1) の結果から $e^{\frac{1}{k}} > 1 + \frac{1}{k} = \frac{k+1}{k}$

$$\frac{1}{k} > \log \frac{k+1}{k} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{1}{k} > \log(k+1) - \log k$$

$$\text{よって} \quad \sum_{k=1}^n \frac{1}{k} > \sum_{k=1}^n \{\log(k+1) - \log k\} = \log(n+1)$$

(3) $n \geq 2$ に対して

$$\sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2} < 1 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{(k-1)k} = 1 + \sum_{k=2}^n \left(\frac{1}{k-1} - \frac{1}{k} \right) = 2 - \frac{1}{n}$$

(4) (3) の結果から $\sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2} < 2$

よって, $\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{k^2}$ は正の無限大に発散しない.

$\lim_{n \rightarrow \infty} \log(n+1) = \infty$ であるから, (2) の結果より

$\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{k}$ は正の無限大に発散する. ■

- 5 (1) 1辺の長さが1である正四面体 ABCD により

$$\begin{aligned} |\vec{AB}| = |\vec{AC}| = |\vec{AD}| &= 1, \\ \vec{AB} \cdot \vec{AC} = \vec{AC} \cdot \vec{AD} = \vec{AD} \cdot \vec{AB} &= 1 \cdot 1 \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2} \end{aligned}$$

したがって

$$\begin{aligned} |\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}|^2 &= |\vec{AB}|^2 + |\vec{AC}|^2 + |\vec{AD}|^2 \\ &\quad + 2\vec{AB} \cdot \vec{AC} + 2\vec{AC} \cdot \vec{AD} + 2\vec{AD} \cdot \vec{AB} \\ &= 1^2 + 1^2 + 1^2 + 2 \cdot \frac{1}{2} + 2 \cdot \frac{1}{2} + 2 \cdot \frac{1}{2} = 6 \end{aligned}$$

$$|\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}| = \sqrt{6} \text{ より}$$

$$AG = |\vec{AG}| = \frac{|\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}|}{4} = \frac{\sqrt{6}}{4}$$

- (2) 点 P は $\triangle BCD$ の重心であるから

$$\vec{AP} = \frac{\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}}{3}$$

$$\text{したがって } \vec{AG} = \frac{3}{4}\vec{AP} \quad \dots \textcircled{1}$$

よって、3点 A, G, P は同一直線上にある。

- (3) $\textcircled{1}$ より $\mathbf{AG : GP = 3 : 1}$

- (4) $\vec{AG} = \frac{\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}}{4}$ より

$$\begin{aligned} \vec{BG} &= \vec{BA} + \vec{AG} = \vec{BA} + \frac{\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}}{4} \\ &= \frac{\vec{BA} + \vec{BC} + \vec{BD}}{4} \end{aligned}$$

(1) と同様にして $BG = \frac{\sqrt{6}}{4}$
 $\triangle AGB$ に余弦定理を適用すると

$$\cos \angle AGB = \frac{AG^2 + BG^2 - AB^2}{2AG \cdot BG} = \frac{\frac{3}{8} + \frac{3}{8} - 1}{\frac{3}{4}} = -\frac{1}{3}$$



6 (1) 加法定理により

$$\begin{aligned}\sin \frac{11}{12}\pi &= \sin \left(\pi - \frac{\pi}{12} \right) = \sin \frac{\pi}{12} = \sin \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{4} \right) \\ &= \sin \frac{\pi}{3} \cos \frac{\pi}{4} - \cos \frac{\pi}{3} \sin \frac{\pi}{4} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4}\end{aligned}$$

(2) $\cos 2\theta + 11 \sin \theta - 6 = 0$ より

$$1 - 2 \sin^2 \theta + 11 \sin \theta - 6 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (\sin \theta - 5)(2 \sin \theta - 1) = 0$$

$0 \leq \theta < 2\pi$ より, $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ であるから

$$\sin \theta = \frac{1}{2} \quad \text{よって} \quad \theta = \frac{\pi}{6}, \frac{5}{6}\pi$$

(3) 方程式 $\sin 3\theta - 9 \sin^2 \theta + 9 \sin \theta = k$ ($0 \leq \theta < 2\pi$) は,

$\sin 3\theta = 3 \sin \theta - 4 \sin^3 \theta$ より

$$-4 \sin^3 \theta - 9 \sin^2 \theta + 12 \sin \theta = k \quad (0 \leq \theta < 2\pi) \quad (*)$$

$x = \sin \theta$ とおくと ($-1 \leq x \leq 1$)

$$-4x^3 - 9x^2 + 12x = k \quad (-1 \leq x \leq 1) \quad (**)$$

$f(x) = -4x^3 - 9x^2 + 12x$ とおくと ($-1 \leq x \leq 1$)

$$\begin{aligned}f'(x) &= -12x^2 - 18x + 12 = -6(2x^2 + 3x - 2) \\ &= -6(x+2)(2x-1)\end{aligned}$$

$f(x)$ の増減表は

x	-1	...	$\frac{1}{2}$...	1
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$	-17	↗	$\frac{13}{4}$	↘	-1

$\sin \theta = x$ ($0 \leq \theta < 2\pi$) の解の個数 N は

$$N = \begin{cases} 0 \text{ 個} & (|x| > 1 \text{ のとき}) \\ 1 \text{ 個} & (|x| = 1 \text{ のとき}) \\ 2 \text{ 個} & (|x| < 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

方程式 (*) が異なる 4 つの解をもつとき, 方程式 (**) が $-1 < x < 1$ に異なる 2 つの実数解をもつときであるから

$$-1 < k < \frac{13}{4}$$



7 (1) $a_1 = 1, a_{n+1} = \frac{4 - a_n}{3 - a_n}$ より

$$a_2 = \frac{4 - a_1}{3 - a_1} = \frac{4 - 1}{3 - 1} = \frac{3}{2}$$

$$a_3 = \frac{4 - a_2}{3 - a_2} = \frac{4 - \frac{3}{2}}{3 - \frac{3}{2}} = \frac{5}{3}$$

$$a_4 = \frac{4 - a_3}{3 - a_3} = \frac{4 - \frac{5}{3}}{3 - \frac{5}{3}} = \frac{7}{4}$$

(2) (*) $a_n = \frac{2n - 1}{n}$

[1] $n = 1$ のとき, $a_1 = \frac{2 \cdot 1 - 1}{1} = 1$ より, (*) が成立する.

[2] $n = k$ のとき, (*) が成立すると仮定すると

$$a_{k+1} = \frac{4 - a_k}{3 - a_k} = \frac{4 - \frac{2k-1}{k}}{3 - \frac{2k-1}{k}} = \frac{2k+1}{k+1} = \frac{2(k+1) - 1}{k+1}$$

よって, $n = k + 1$ のときも (*) が成立する.

[1], [2] より, すべての自然数 n について, (*) が成立する.

補足 特性方程式 $x = \frac{4 - x}{3 - x}$ を解くと¹ $x = 2$

$$a_{n+1} - 2 = \frac{4 - a_n}{3 - a_n} - 2 = \frac{a_n - 2}{3 - a_n}$$

ゆえに $\frac{1}{a_{n+1} - 2} = \frac{3 - a_n}{a_n - 2} = \frac{1}{a_n - 2} - 1$

数列 $\left\{ \frac{1}{a_n - 2} \right\}$ は初項 $\frac{1}{a_1 - 2} = -1$, 公差 -1 の等差数列であるから

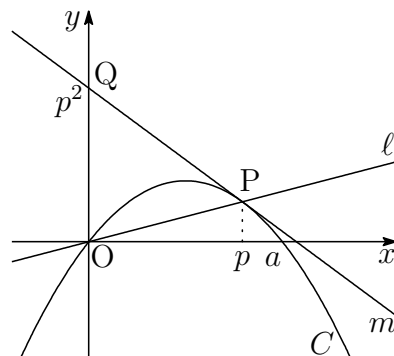
$$\frac{1}{a_n - 2} = -1 - (n - 1) = -n \quad \text{ゆえに} \quad a_n - 2 = -\frac{1}{n}$$

よって $a_n = \frac{2n - 1}{n}$ ■

¹<http://kumamoto.s12.xrea.com/N/TKdai/TKdai-2015.pdf> (p.4 参照)

- 8 (1) 求める面積を S_1 とすると

$$S_1 = \int_0^a x(a-x) dx = \frac{a^3}{6}$$



- (2) 点 P の x 座標を p とすると

$$\frac{p^3}{6} = \frac{1}{2}S_1 = \frac{1}{2} \cdot \frac{a^3}{6} \quad \text{ゆえに} \quad p = \frac{a}{\sqrt[3]{2}}$$

$$y = p(a-p) = \frac{a}{\sqrt[3]{2}} \left(a - \frac{a}{\sqrt[3]{2}} \right) = \frac{\sqrt[3]{4} - \sqrt[3]{2}}{2} a^2$$

$$\text{よって} \quad P \left(\frac{a}{\sqrt[3]{2}}, \frac{\sqrt[3]{4} - \sqrt[3]{2}}{2} a^2 \right)$$

- (3) $y = x(a-x) = ax - x^2$ より $y' = a - 2x$
 C 上の点 $P(p, p(a-p))$ における接線の方程式は

$$y = (a-2p)(x-p) + p(a-p) \quad \text{ゆえに} \quad y = (a-2p)x + p^2 \quad (*)$$

$$p = \frac{a}{\sqrt[3]{2}} \text{ より } m: y = (1 - \sqrt[3]{4})ax + \frac{a^2}{\sqrt[3]{4}}$$

- (4) 直線 m の y 軸との交点を Q とすると, (*) より $Q(0, p^2)$
 y 軸と C と m で囲まれた部分の面積を S_2 とすると

$$S_2 = \triangle OPQ - \frac{1}{6}p^3 = \frac{1}{2}p^2 \cdot p - \frac{1}{6}p^3 = \frac{1}{3}p^3 = \frac{1}{3} \left(\frac{a}{\sqrt[3]{2}} \right)^3 = \frac{a^3}{6}$$

$$\text{よって} \quad S_1 = S_2$$

